

一般講演 31  
多焦点眼内レンズ  
Multifocal intraocular lens

2025 年 10 月 11 日 (土) 14:10-15:30  
第 4 会場 | 大阪国際会議場 12F 特別会議場

座長：ビッセン宮島 弘子 (東京歯大・水道橋)

土-講演 31-6  
LASIK 術後眼の多焦点眼内レンズ挿入症例に関する多施設研究  
A Multicenter Study of Multifocal Intraocular Lens Implantation after LASIK

小島 隆司<sup>1</sup>、松島 博之<sup>2</sup>、永田 万由美<sup>2</sup>、森 洋斉<sup>3</sup>、  
柴 琢也<sup>4</sup>、神谷 和孝<sup>5</sup>、後藤 聡<sup>6,7</sup>、鳥居 秀成<sup>8</sup>、  
長谷川 優実<sup>9</sup>、宮田 和典<sup>3</sup>

1:名古屋アイクリニック、2:獨協医大、3:宮田眼科病院、4:六本木柴眼科、5:  
昭和医大、6:大阪大、7:東京医療センター、8:慶應大、9:筑波大

【目的】LASIK 術後眼に対する多焦点眼内レンズ (IOL) 挿入症例を多施設研究として解析する。

【対象および方法】2012 年 3 月～2024 年 12 月まで、7 研究施設で LASIK 手術後に多焦点眼内レンズを挿入した 43 症例 65 眼を対象とした。対象症例の術前及び術後 3 ヶ月の情報を後ろ向きに解析し、患者背景、LASIK から白内障手術までの期間、使用眼内レンズの種類、術前後の視力、予測屈折誤差、術前後合併症について検討した。

【結果】平均年齢は  $56.2 \pm 7.9$  歳 (41～69 歳)、男性 27 例女性 28 例であった。挿入された眼内レンズは、2 焦点が 14 眼、3 焦点が 13 眼、連続焦点が 12 眼、EDOF が 23 眼、屈折型が 1 眼、分節型 2 焦点が 3 眼であった。核硬度は Emery-Little 分類で平均  $2.5 \pm 0.7$ 、術前眼軸長は  $26.8 \pm 1.6$ mm、平均 K 値は  $39.6 \pm 2.4$ D であった。LASIK 手術から白内障手術までの期間は平均は  $14.6 \pm 5.4$  年 (7～28 年) であった。

術前の遠方裸眼及び矯正視力 (logMAR, 少数視力) は  $0.46 \pm 0.41(0.35)$ 、 $0.12 \pm 0.58(0.75)$  で、術後 3 ヶ月は  $0.02 \pm 0.12(1.1)$ 、 $-0.11 \pm 0.08(1.3)$  であった。予測屈折誤差は  $-0.09 \pm 0.37$ D で、 $\pm 0.5$ D 以内に 56 眼 (86.2%)、 $\pm 1$ D 以内が 65 眼 (100%) であった。術前にドライアイ治療中の患者が 15 症例あり、術後早期の角膜浮腫を 2 眼、早期の眼圧上昇を 3 眼に認めた。

【結論】LASIK 後の多焦点眼内レンズは EDOF が選択される傾向が多く、術後視力は良好な結果が得られた。

【利益相反公表基準】該当有

【IC】オプトアウト

【倫理審査】承認番号取得済

【動物実験委員会】該当無